

風邪は治ったはずなのに、咳はちっとも治まらない、といったような状態が数週間続いたら、それは咳喘息かも知れません。最近、咳喘息の患者さんが増えています。咳喘息者のうち約3割が気管支喘息に移行するといわれています。そこで、今回は咳喘息の症状、診断、治療についてご紹介します。

●咳の種類

種類	持続期間	原因となる病気
急性咳嗽	3週間未満	風邪、インフルエンザ、急性気管支炎など
遅延性咳嗽	3週間以上	咳喘息、アトピー咳嗽、副鼻腔気管支症候群、胃食道逆流症、慢性気管支炎など
慢性咳嗽	8週間以上	

●咳喘息とは？

咳喘息は、原因不明の咳が3~8週間以上持続する慢性咳嗽の原因疾患のうち、最も頻度が高い疾患です。

理由は不明ですが、咳喘息は小児での発症は稀で、**成人女性に発症しやすい**といわれています。就寝時~早朝、気温差や気圧差が大きくなる春や秋に悪化しやすく、気温差や運動等の軽度の刺激で激しい咳が起こる等の特徴があり、風邪や喫煙等の要因で悪化します。

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人女性で発症しやすい</li> <li>就寝時~早朝に悪化しやすい</li> <li>気温差や気圧差が大きくなる春や秋に悪化する</li> <li>軽度の刺激で激しい咳が起こる</li> </ul>
憎悪因子	<ul style="list-style-type: none"> <li>風邪・インフルエンザ</li> <li>喫煙・副流煙</li> <li>気温・気圧・湿度の変化</li> <li>黄砂</li> <li>花粉</li> <li>運動</li> </ul>

●咳喘息の症状

**痰を伴わない空咳**が唯一の症状で、喘息に特徴的な「ヒューヒュー」「ゼーゼー」といった喘鳴、呼吸困難、息苦しさ等の症状はありません。喘息同様、咳症状を繰り返すことによる気道壁の肥厚（気道リモデリング）が認められ、専門施設でのみ行われる気道過敏性検査では、軽度の亢進がみられます。

●咳喘息と喘息の主な症状の違い

疾患名	咳	痰	喘鳴	呼吸困難	息苦しさ	気道リモデリング	気道過敏性亢進
咳喘息	○	×	×	×	×	○	○ (軽度)
喘息	○	○	○	○	○	○	○

●咳喘息の診断

咳喘息の診断は、咳症状のみでは原因疾患を特定できないため、他の症状や治療薬の効果の有無により行います。

痰がなく、症状の季節性等の症状・所見から咳喘息が疑われ、**吸入ステロイド薬および気管支拡張薬で症状の改善が認められる場合、咳喘息と確定診断**されます。



簡易診断基準

- 喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼーといった呼吸）を伴わない咳が8週間以上続いている
- 咳には気管支拡張薬が有効である

●咳喘息の治療法

治療は基本的に喘息と同様で、気道の炎症を抑えて喘息への移行の予防と咳症状の軽減効果が期待できる、**吸入ステロイド薬を第1選択薬**で使用します。その他重症度に応じ、咳症状を軽減する気管支拡張薬等を併用した治療を行います。

吸入ステロイド薬を中心とする治療により、症状は軽減し、薬剤量も減量できますが、治療の中断により再発する可能性があるため、2年程度の治療継続が必要です。

既に治療を行ったうえで症状が残っている場合は、吸入ステロイド薬の変更や増量をしながらか、適宜気管支拡張薬などを追加し治療します。

重症度	症状	治療
軽症	<ul style="list-style-type: none"> <li>症状は毎日ではない</li> <li>就寝中の症状は週1回未満</li> </ul>	<p><b>長期管理</b> 中用量の吸入ステロイド薬 (使用できない場合はロイコトリエン受容体拮抗薬)</p> <p><b>発作時</b> 短時間作用性吸入β<sub>2</sub>刺激薬を頓用し、効果不十分な場合は経口ステロイド薬を使用</p>
中等症以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日症状が出る</li> <li>就寝中の症状が週1回以上</li> </ul>	<p><b>長期管理</b> 中~高用量の吸入ステロイド薬 長時間作用性吸入β<sub>2</sub>刺激薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬、テオフィリン徐放製剤等の適宜追加</p> <p><b>発作時</b> 短時間作用性吸入β<sub>2</sub>刺激薬を頓用し、効果不十分な場合は経口ステロイド薬を使用</p>

咳喘息は早期に適切な治療を受ければ、気管支喘息に至る前に治すことが可能です。「風邪が長引いているだけ」、「花粉症がひどい」などと思わずに、早めに呼吸器内科を受診しましょう。